

GOD WITH US

Part 12: THE APOCALYPSE
Message 1 – Revelation 1-3
The Glorified Lord
Addresses His Churches

神はわれらと共に

パート 12：アポカリユプシス（黙示録）

第 1 メッセージ - ヨハネの黙示録第 1 - 3 章

栄光の主

教会に語られる

はじめに

ヨハネの黙示録は、キリストの未来と再臨に関する新約聖書の唯一の預言書です。冒頭で、「イエス・キリストの黙示」、つまり、イエス・キリストの啓示ですとあります。この本は、キリストの再臨と、王の王、主の主の啓示であり、第 19 章に記されている、目に見えるイエスの再臨のとき、最高潮に達します。この書の大部分（第 4-19 章）は、神が任命された支配者である、イエス・キリストを拒絶した結果として、地上とその民に降りかかる神の裁きを描いています。地に対する神の主張に抵抗するために、「サタンの王国」が立ち上がると、大患難が起こります。サタンは世を支配するために「反キリスト」を任命し、その王国は、短期間は立っているものの、その後、キリストの再臨の時に敗北します。再臨の後、サタンが縛られ、キリストが民と共に地上を支配される

1000 年の期間があります（第 20 章）。その後、サタンは解放され、その究極の終わりを迎える前に、最後の反乱を起こします。最後に、ヨハネは、神がその民と共に永遠に住まわれる新しい天と新しい地の到来を見ます（第 21、22 章）。

あいさつ：1：1-7

1:1 イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。1:2 ヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。1:3 この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。（黙示録 1：1 - 3）

イエス・キリストが世に宛てた、未来の「啓示」がヨハネに告げ知らされたので、ヨハネは、それを世に伝えることができました。この書に記されていることに熱心に注意を払う人々は祝福されます。対照的に、これらのみ言に追加したり取り除いたりする人々には、呪いがあります（黙示録 22：18,19）。この書は、最初から最後まで、現実味と重大さが浸透しています。これらの出来事は必ず起こります。そして、物語の最後の章を見越して、私たちがどのように生きるべきかを教えてください。黙示録は、全世界が読むための書物です

が、元々は、司教として、ヨハネが小アジアの7つの教会に書き送ったものです。

1:4 ヨハネからアジヤにある七つの教会へ。今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかたから、また、その御座の前にある七つの霊から、**1:5** また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、**1:6** わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、**アメン**。**1:7** 見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。しかり、**アメン**。（黙示録1：4－7）

三位一体の3方が冒頭の挨拶に含まれています。今いまし、昔いまし、やがてきたるべきかたから（父なる神）、また、その御座の前にある七つの霊から（御霊・数字の7は、完全さを表します）、**1:5** また、忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者であるイエス・キリストから（御子）、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。神の御子なるイエスについての描写が、全あいさつ文（5-7節）の中で、最も長いことから、明らかに、イエス・キリストこそが、この物語の主要であることがわかります。最後の節（黙示録1：7）は、黙示

録全体のメッセージで、「イエスが再び来られる」と宣言しています。黙示録の締めくくりでも、繰り返されています：

「しかり、わたしはすぐに来る」（黙示録22：20）。ヨハネは、メシアに関する2つの旧約聖書の預言、ダニエル書第7章13節とゼカリヤ書第12章10節を組み合わせています。どちらもヨハネの約500年前に記されました。これらの旧約聖書の幻を通して、預言者たちは、神の任命された救い主であられる王が、偉大な栄光と永遠の王国を受け継がれるために世にやって来るのを見ました。彼らはまた、あらゆる国の人々がこの神から送られた王の権威にひれ伏しているのを見ました。これらの幻は、ヨハネが見た未来の幻とまったく同じですが、ヨハネは、はるか詳細を描写しています。

イエス・キリストの幻：1：8-20

使徒ヨハネは、キリストの幻が与えられたとき、パトモス島で囚人としての苦しみを耐え忍んでいました。イエスの御姿は、非常に輝かしく、ヨハネは、その足もとに倒れて死人のようになった。これはヨハネが日曜日に一人で神を崇拝していたときに起こりました：

1:8 今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神が仰せになる、「わたしはアルパであり、オメガである」。**1:9** あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイ

エスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。1:10 ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。そして、わたしのうしろの方で、ラッパのような大きな声がするのを聞いた。1:11 その声はこう言った、「あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい」。1:12 そこでわたしは、わたしに呼びかけたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。1:13 それらの燭台の間に、足までたれた上着を着、胸に金の帯をしめている人の子のような者がいた。1:14 そのかしらと髪の毛とは、雪のように白い羊毛に似て真白であり、目は燃える炎のようであった。1:15 その足は、炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり、声は大水のとどろきのようであった。1:16 その右手に七つの星を持ち、口からは、鋭いもろ刃のつるぎがつき出ており、顔は、強く照り輝く太陽のようであった。1:17 わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れて死人のようになった。すると、彼は右手をわたしの上において言った、「恐れるな。わたしは初めであり、終りであり、1:18 また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っていく。1:19 そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起ろうとすることを、書きとめなさい。1:20 あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台との奥義は、こうであ

る。すなわち、七つの星は七つの教会の御使であり、七つの燭台は七つの教会である。（黙示録1：8－20）

主は、威厳、権力、権威をまとわれた栄光の王／祭司の御姿で、ヨハネに現れられました。ご自身を「今いまし、昔いまし、やがてきたるべき者、全能者にして主なる神…、「アルパであり、オメガである」（8節）と言われ、さらに、「わたしは初めであり、終りであり、また、生きている者である。」（17節）と特定されました。イエスの死と復活と昇天は、イエスに、生と死の領域に支配する権威を与えました。地上におられたイエスに非常に近かったヨハネは、威厳あるイエスの覆いのない、ありのままのご栄光をまとわれての出現にショックを受けその足もとに倒れて死人のようになりました。

七つの教会への主のメッセージ：2：1－3:22

栄光の主が先ずヨハネに命じられたことは、小アジアの州にある主の「燭台」、つまり7つの地域教会の現状に対処することでした。これらの教会は、世にイエスを証するべき教会であるので、主は、教会の状態と、輝やかせる光の質を心配されました。

-エペソにある教会へ：2：1-7

エペソという町は、主要都市で、この地域に植えられた他の教会の中でも中心的な場所に位置していました。エペソで

起こっていたことは、地域全体に大きな影響をもたらしていたので、この教会が最初に取り上げられました。

2:2 わたしは、あなたのわざと労苦と忍耐とを知っている。また、あなたが、悪い者たちをゆるしておくことができず、使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちをためしみて、にせ者であると見抜いたことも、知っている。**2:3** あなたは忍耐をし続け、わたしの名のために忍びとおして、弱り果てることがなかった。**2:4** しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

(黙示録 2 : 2 - 4)

エペソの教会の人々は、善い行い、教義、規律には、強い人々でしたが、イエスへの初めの愛を失ってしまっていました。主は、初めの愛に戻るよう警告され、悔い改めなければ衰退するでしょうとも言われました。

2:5 そこで、あなたはどこから落ちたかを思い起し、悔い改めて初めのわざを行いなさい。もし、そうしないで悔い改めなければ、わたしはあなたのところにきて、あなたの燭台をその場所から取りのけよう。(黙示録 2 : 5)

ヨハネの手紙第一から学んだように、イエス様について正しい考えを維持することは非常に重要です。しかし、私たちとイエス様との関係は、正しい考えに基づくというよりも、愛に基づきます。私たちに対するイエス様の愛と、その応答

としての私たちのイエス様への愛です。イエス様との関係に入ったばかりの頃を振り返る他に、イエス様への愛を再燃するためのより良い方法はありません。あなたがクリスチャンになりたてのとき、イエス様をどのように感じておられたでしょうか。イエス様の愛に応えるために、何をされましたか？ そのみ言を読み、祈りの内に会話し、他の人にイエス様について話し、イエス様のご計画を知り、その道を歩むことを求め、他の「神々」や、罪深い習慣から離れ、等. . . 。イエス様への「初めの愛」を今日、再燃させるために、どうすればよいのでしょうか？

-スミルナにある教会へ : 2 : 8-11

現在のイズミルは、これら7つの古代都市のうち、唯一、今も存在している都市です。ヨハネの時代、スミルナは、エペソと競い、小アジアの主要都市として認められました。そこはまた、皇帝崇拝の中心地でもあり、おそらくそれが、そのキリスト信者たちが(皇帝に忠実な地元のユダヤ人からの)異常に厳しい迫害に耐えていた理由であったと考えられます。主は彼らの試練をご存知であり、10日間という限定された期間、より激しい迫害が近づいており、その結果、一部の人々は投獄され、さらには死に至るとも警告されました。それでも、主は、恐れずに、この苦難に耐えた後には、命の冠の報酬が与えられると励まされました。

2:9 わたしは、あなたの苦難や、貧しさを知っている（しかし実際は、あなたは富んでいるのだ）。また、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくてサタンの会堂に属する者たちにそしられていることも、わたしは知っている。2:10 あなたの受けようとする苦しみを恐れてはならない。見よ、悪魔が、あなたがたのうちのある者をためすために、獄に入れようとしている。あなたがたは十日の間、苦難にあうであろう。死に至るまで忠実であれ。そうすれば、いのちの冠を与えよう。2:11 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。勝利を得る者は、第二の死によって滅ぼされることはない』。2:12 ペルガモにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。（黙示録2：9－11）

歴史に、スミルナの司教、ポリュカルポスの殉教の物語が残されています。「The death of Polycarp（ポリュカルポスの死）」を検索すると、ポリカリュポスの死に間際の証を読むことができます。この物語は、1世紀後半から2世紀初頭に、スミルナの大勢のクリスチャンが、いかに信仰のために生きたことによって殺されたかについての洞察を与えます。

「恐れてはならない」というみ言は、全聖書を通して57回登場します。創世記第15章1節の、アブラハムに対する神のみ言から始まり、黙示録第2章10節の言及が最後です。恐れられないための土台は、神が、あらゆる世代の神の子たちのための盾であるという知識です。イエスは「**最初で最後の、死**

んだが生き返った者（黙示録2：8）」です。イエスは、いつでもどこでも主権者です。私たちのためのイエスの御心でないものは、私たちに触れることさえできません。ですから私たちは、人々が何を仕掛けてくるか、常に恐れている必要はありません。人生の試練の中でも、イエス様が支配しておられ、最終的にはいのちの冠をもって報いてくださることを知っているのです。自信を持って、主の平安の内に憩うことができます。あなたは、地上の試練の只中で、イエス様のご臨在の内に憩っておられるでしょうか？

-ペルガモにある教会へ：2：12-17

この部分を読んだとき、サタンがペルガモに王座を構えていると、イエス様が二度言われた事実に衝撃を受けずにいられませんでした。

2:13 わたしはあなたの住んでいる所を知っている。そこにはサタンの座がある。あなたは、わたしの名を堅く持ちつづけ、わたしの忠実な証人アンテパスがサタンの住んでいるあなたがたの所で殺された時でさえ、わたしに対する信仰を捨てなかった。（黙示録2：13）

おそらく、サタンの存在についての二重の言及は、岩棚にそびえ立つ巨大なゼウスの神殿のことと考えられます。そこには、高さ40フィートの巨大なゼウス像が街を見下ろすように座しています（玉座の様に見えた）。また、この街には、アジア

の守護神であるアテナ崇拜（ギリシャ神話の女神）、王家の神であるディオニソス崇拜（ギリシャ神話の酒の神）、癒しの神であるエスクレピアス崇拜（ギリシャ神話の名医）の神殿もありました。このような宗教の多様性に加えて、この都市には、蔵書約 20 万冊という、古代世界で 2 番目に大規模な図書館がありました。私たちは、あらゆる情報源から、この都市の環境は、クリスチャンが生活するには極めて困難であったことを知っています。イエスへの献身のために殉教した、忠実な証人アンティパスについても語られていますが、少数の忠実な信仰にもかかわらず、多くの人々の間で真理への理解を失う傾向がありました。

2:14 しかし、あなたに対して責むべきことが、少しばかりある。あなたがたの中には、現にバラムの教を奉じている者がある。バラムは、バラクに教え込み、イスラエルの子らの前に、つまずきになるものを置かせて、偶像にささげたものを食べさせ、また不品行をさせたのである。 **2:15** 同じように、あなたがたの中には、ニコライ宗の教を奉じている者もいる。 **2:16** だから、悔い改めなさい。そうしないと、わたしはすぐあなたのところに行き、わたしの口のつるぎをもって彼らと戦おう。（黙示録 2：14－16）

異教の預言者バラムがイスラエルの人々を偶像崇拜と性的墮落へと誘惑した物語は、民数記第 22－24 章にあります。ペルガモでも同様のことが起こっていました。ニコライ派の教

えは、人々を性的墮落が伴う多くの異教の神々や女神崇拜や、その他の偶像崇拜の墮落へと導きました。異教の神殿では、男女の売春婦たちが司祭の中心に置かれていました。第一 1 コリントでは、教会に忍び寄る同様の異教の宗教的慣習を扱いました。パウロは、宗教的／道徳的な妥協に導かれる危険性を教会に警告するために、バラムの同じ事例について指摘しています（1 コリ 10：1-13）。

イエスは、ペルガモンの教会に悔い改めるように警告されました。「わたしの口の剣」とは、私たちの信念と神の民としての行動の指針となる神のみ言を指します。私たちが信じたり実践したりすることはすべて、真理のみ言と一致していなければなりません。

アンティパスは、完全な迫害の「表口」における、サタンの攻撃に忠実に抵抗しました。しかし、この信者のグループは、欺瞞的誘惑の「裏口」における、サタンの攻撃の餌食になりました。正しい教義を維持することは重要ですが、正しい実践を維持することもまた同様に重要です。あなたは、正しい信念と同様に、正しい行動について気を付けておられるでしょうか？ クリスチャンの教義と同じくらい、クリスチャンの義務について心に留めておられるでしょうか？

-テアテラにある教会へ：2：18-29

7つの都市の中で最も小さな都市が最も長い手紙を受け取りました。これは、教会の規模は、主にとっては重要ではないことを証明しています。他の都市とは異なり、テアテラのチャレンジは、グレコローマン宗教や、世界的に有名な大規模図書館や、皇帝崇拜から来るものではなく、むしろ、労働組合に参与した労働者階級の生活から来るものでした。当時の様々な貿易組合は、通常、特定の偶像神の崇拜に関連しており、その特定の神や女神崇拜のお祭りや活動への献身が伴いました。テアテラでは、教会の純粋さが、これらの貿易組合への会員としての参与によって揺るがされ、道徳的／霊的妥協へとつながりました。

2:19 わたしは、あなたのわざと、あなたの愛と信仰と奉仕と忍耐とを知っている。また、あなたの後のわざが、初めのよりもまさっていることを知っている。**2:20** しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせている。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせている。**2:21** わたしは、この女に悔い改めるおりとを与えたが、悔い改めてその不品行をやめようとはしない。（黙示録2：19－21）

「イゼベル」は、おそらく、偶像礼拝的な慣習と不品行を紹介していた、テアテラの女預言者の象徴的名称と考えられ

ます（イスラエルで同様に行動した旧約聖書の女、イゼベルから来ています。）。この教会は、活動と奉仕に満ちていました。しかし、おそらく上記の貿易組合に関連し、この女性によってもたらされた道徳的妥協の餌食になったと考えられます。教会の主であるイエスは、イゼベルだけでなく、彼女の子供たち（彼女の教えと実践に従う人たち）も裁かれると警告されました。

2:22 見よ、わたしはこの女を病の床に投げ入れる。この女と姦淫する者をも、悔い改めて彼女のわざから離れなければ、大きな患難の中に投げ入れる。**2:23** また、この女の子供たちをも打ち殺そう。こうしてすべての教会は、わたしが人の心の奥底までも探り知る者であることを悟るであろう。そしてわたしは、あなたがたひとりびとりのわざに応じて報いよう。**2:24** また、テアテラにいるほかの人たちで、まだあの女の教を受けておらず、サタンの、いわゆる「深み」を知らないあなたがたに言う。わたしは別にほかの重荷を、あなたがたに負わせることはしない。**2:25** ただ、わたしが来る時まで、自分の持っているものを堅く保っていなさい。**2:26** 勝利を得る者、わたしのわざを最後まで持ち続ける者には、諸国民を支配する権威を授ける。**2:27** 彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。**2:28** わたしはまた、彼に明けの明星を与える。**2:29** 耳の

ある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。(黙示録 2 : 22 - 28)

イエスに従い、イゼベルの教えに抵抗した人々は、国々に対するイエスの支配と権威を分かち合うことを約束されました。

クリスチャンの価値観に左右されない環境 (例: 職場、チーム、学校、ジム、友人のグループ、委員会など) にいるときに、どのように生活し行動しているか考えてみてください。影響は、どちらに傾いているでしょうか。あなたは、その環境の中の人々に、「地の塩、世の光として」影響を及ぼすことによって、イエスへの信仰に硬く立って、生きておられるでしょうか。人々の目に、あなたは「別のドラムのビートに合わせて行進している」様に映っているでしょうか。それとも、その設定の人々の価値観と実践によって、あなたを形作り、あなたのクリスチャンの原則を揺るがし、危うくしているでしょうか？

-サルデスにある教会へ : 3 : 1-6

サルデスという町は、クロイソス王の治世中にリディア王国の首都になる 600 年前に、「かつての偉大な都市」として知られていました。しかし、城壁の監視員が目を見失ったことから、町は二度外国の権力に陥りました。

「目を覚ましなさい」という主の忠告は、その警告と同様に、彼らの注意を引いたことでしょう：もし目をさましてい

ないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。

サルデスの近くには、「the valley of "a thousand mounds." (千の塚)」の谷という有名な王家の墓地がありました。イエスは、「この教会は生きている」という他教会からの評判を否定されたとき、この墓地に因んでおられたかもしれません。サルデスは、現在進行形で、完全に活動している教会ではなく、その評判の内に休息していた教会 (信仰は形式的で、超自然的ないのちの交流がない) でした。イエスは、彼らの活動を見られ、彼らが生きているというのは「名だけで」彼らの霊的生活がほとんど死んでいることをご存知でした。

... わたしはあなたのわざを知っている。すなわち、あなたは、生きているというのは名だけで、実は死んでいる。3:2 目をさまして、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたのわざが、わたしの神のみまえに完全であるとは見ていない。3:3 だから、あなたが、どのようにして受けたか、また聞いたかを思い起して、それを守りとおし、かつ悔い改めなさい。もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない。3:4 しかし、サルデスにはその衣を汚さない人が、数人いる。彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である。3:5 勝利を得る者は、このように白い衣

を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言い表わそう。3:6 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。(黙示録3:2-6)

サルデスは、「かつて偉大な町」でした。サルデスの教会は「かつて偉大な教会」でした。今日も、かつてキリストへの献身において偉大であった教会が見られます。地域における彼らの評判は強力で確かに存在しました。彼らは、その世界に変化をもたらしていました。成長し、多くのいのちが変えられたのを見ました。新しい教会が誕生し、新しい指導者が派遣されていました。しかしその後、時が経ち、かつては生き生きとしていた教会が、今では生命維持を要する状態に陥ってしまっています。ですから教会が、今の世代だけでなく、常に次世代について考えることが非常に重要です。どうすれば、敬虔な若い指導者を育て上げ、私たちを導く者となるように力づけることができるのでしょうか。未だイエスに従わない次世代の人々に、どのように手を差し伸べることができるのでしょうか。35歳未満の会衆の割合を増やすにはどうすればよいのでしょうか。キリストのメッセージを損なうことなく、私たちが提供するミニストリーを次世代に関連させるにはどうすればよいのでしょうか。停滞して縮小するのではなく、どうすれば成長して拡大できるのでしょうか。未来を考え

ていない教会は、数年のうちに、現在のサルデス、つまり、かつての教会と化します。

注：「いのちの書」は、黙示録全体で言及されており(3:5; 13:8; 17:8; 20:12, 15; 21:27)、すべての人類の最終的な審判のとき注目されます。永遠の都に入るためには、いのちの書に自分の名前が記されている必要があります。古代都市には、住民登録簿があることが一般的でした。これは、訪問者や一時的に通過する人たちではなく、市民と見なされた人々の名前が記されているリストです。人々が町から離れたときや、価値のない市民であることが解ったとき、彼らの名前は登録簿から消去されました。イエスが、いのちの書から誰かの名前が消されることについて言及されたとき、人々が彼らの救いを失う可能性があると言われたわけではありません(この考えは新約聖書の他の場所での多くの明確な教えと矛盾します)。むしろ、イエスは、比喩を用いて、天国の真の市民と、天国の市民の振りをしていない市民がいると言っています。最終的に、神の真の子どもたちだけが永遠の都に入ります。(参照：マタイ7:21-23、イエス様が、この考えを非常に明確に表現しておられます。)

-フィラデルフィアにある教会へ：3:7-13

300年前、フィラデルフィアは、ギリシャの文化と文学を世界中に広めるための「宣教師の街」となるために設立されました。思想を前進させるための「玄関口」と見なされていました。ですから、イエス・キリストが、フィラデルフィア

の教会に行かれて、「わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。」と告げられたことは大変相応しいです。この教会には、キリストのメッセージが世界に発信されるための入り口となるユニークな機会が与えられていました。

3:7 ヒラデルヒヤにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『聖なる者、まことなる者、ダビデのかぎを持つ者、開けばだれにも閉じられることがなく、閉じればだれにも開かれることのない者が、次のように言われる。 **3:8** わたしは、あなたのわざを知っている。見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたには少ししか力がなかったにもかかわらず、わたしの言葉を守り、わたしの名を否まなかったからである。

(黙示録 3 : 7, 8)

イエスが、ダビデの鍵 (王国の鍵) を持っておられるというリマインダーは、フィラデルフィアのクリスチャンを勇気づけたに違いありません。彼らの状況においては、イエスの制御を超えるものは何一つありませんでした。彼らは、小さくて無力な少数派のように感じたかもしれませんが、王の王が彼らの側にいて、地球上のどの隠された意図もイエスのご計画を妨げることができないことを思い出させる必要がありました。彼らの任務の成功は彼ら自身の力に依存しているのではなく、むしろ、彼らが主に忠実であり続けたときに、彼らを

通して現れる主の力に依存していました。反対してくる人たちが必ず存在します。しかしイエスは、反対派を主の民の足元に倒し、イエスが彼の花嫁 (教会) を愛していることをすべての人が知るようにされました。

3:9 見よ、サタンの会堂に属する者、すなわち、ユダヤ人と自称してはいるが、その実ユダヤ人でなくて、偽る者たちに、こうしよう。見よ、彼らがあなたの足もとにきて平伏するようにし、そして、わたしがあなたを愛していることを、彼らに知らせよう。 **3:10** 忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも、地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時に、あなたを防ぎ守ろう。 **3:11** わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。 **3:12** 勝利を得る者を、わたしの神の聖所における柱にしよう。彼は決して二度と外へ出ることはない。そして彼の上に、わたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、天とわたしの神のみもとから下ってくる新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを、書きつけよう。 **3:13** 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』。

(黙示録 3 : 9 - 13)

健全な教会は常に、神がご自分の民の前に置かれている機会の「開かれた扉」を探しています。開いたドアを設けたり、ドアを強制的に開いたりするのは、私たちの責任ではあ

りません。むしろ、神の開かれた扉をはっきりと見せてくださるよう神に求めることこそが私たちの責任です。扉の向こう側で何が私たちを待っているとしても、私たちが神のお目的のために、神によって用いられ、神に対応する方法で、神によって保護されるのは、私たち神の民が完全な信仰を持って通り抜ける扉に限ります。教会全体に当てはまることは、個人にも当てはまります。神は、あなたの前にどんな「開かれた扉」を置かれましたか。あなたは、それらの扉を求めておられるのでしょうか。それらが何であるか／どこにあるかをあなたに示してくださるとき、それらの扉を通り抜ける準備ができていますでしょうか。

-ラオデキアにある教会へ：3：14-22

ラオデキアという町は、非常に裕福な町でした。縫製産業が盛んで、特別な生地と上着を生産していました。目薬を製造する製薬も盛んでした。この都市は水不足でも知られていました。町の水は、約5マイル離れた源泉から水路を通して遙々流れてきました。水が町に届く頃には、なまぬるくなっていました。イエスは、これらの馴染ある描写を用いて、ラオデキアの教会に、つき刺すような叱責をされます。主の目には、彼らは裕福ではなく、霊的に裸でした。彼らの霊的な目は癒しを必要としていました。また、全体的な温度は、水と同様に、なまぬるくなっていました。愛をもって、イエス

は、この教会に呼び掛けられ、神の目で見える状態を見て、変わる必要があると言われました。

3:15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。**3:16** このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。**3:17** あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。**3:18** そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。**3:19** すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって悔い改めなさい。**3:20** 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。**3:21** 勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。**3:22** 耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい』」。

(黙示録3：15－22)

ラオデキヤのクリスチャンが、彼らの霊的状态をいかに誤って推定したかが衝撃的です。彼ら自身の絶望的な平凡さを自覚していませんでした。自分たちの状態について、3つの肯定的な評価をしました：富んでいる、裕福である、必要なものは何一つない。イエスは、彼らの状態について、5つの否定的な評価を下されました：**みじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない**。彼らは、神との関係についての虚偽の昏迷に陥っていました。なまぬるいにも関わらず、それさえ知らないのです。主は、「熱心になりなさい」と呼びかけられています。霊的生活の熱を上げるように命じておられます。

ここには、驚くばかりのキリストの愛が現れています。この手紙の冒頭では、主は彼らの状態に口から吐き出す準備ができておられましたが、終わりでは、イエスとの甘い交わりの内を歩むよう招いておられます。イエス様は、ご自分との甘い交わりの内に歩むことを望んでおられます。その機会を手にするかしないかは、彼ら次第でした。しかし、主は、彼らに夕食の招待を強制されませんでした。いつものように、イエス様はノックされます。私たちは、扉を開けて、主の永遠で、恵み深い試みに応えなければなりません。

平凡で中途半端なクリスチャン生活は、私たちのために命を捧げてくださった主を受け入れる方法ではありません！とてつもない愛の呼びかけには、とてつもない応答を要しま

す。イエス様は、あなたとより緊密な交わりの内に歩むために、どのように招いておられるでしょうか。主は、どのように「扉をノック」されて、あなたと食事(み言)を共にするよう招いておられるでしょうか。そして、あなたは、主のより緊密な交わりへの招きに、どのように応えておられますか。神との関係により多くの時間を費やすために、あなたのスケジュールを変更する必要がありますか。主へのひたむきな献身を反映するために、あなたの生活から取り除く必要があるものはありますか。躊躇しているあなたの前に、主が繰り返し置かれた機会はありませんか。イエス様は、生涯を通して、扉の外に立ってノックし、私たちの生活の中心的な場所への入り口を求めておられることを忘れないでください。

ディスカッションの質問

1. 7つの教会へのイエスのメッセージの中で、どれがあなたに最もチャレンジしましたか？
2. 栄光に満ちた主の描写(第1章)は、イエスに対するあなたの見方と理解をどのように形作りましたか。
3. 今日、イエス様が、あなたとの関係について短いメッセージを与えたとしたら、何と言われると思いますか？私たちの教会には、何と言われると思いますか？